



退職まで残り10年

リタイア後の資金を準備したい

目標利回りを達成するには？

55歳の男性会社員。退職するまで残り10年あります。この間にリタイア後の生活を支える資金を準備したいと思っています。

子どもが今年、大学を卒業し、就職も決まりました。教育費の支出がなくなるため、これから毎月10万円の積み立てができています。現在の金融資産は1千万円、すべて預貯金です。住まいは親の相続で受け取ったので、住宅ローンはありません。

55歳の退職時に、できれば3千万円は準備したいと考えています。会社の業績が悪く、退職金は期待できそうにありません。預貯金にはわずかな金利しかつかないの、思い切った高い利回りをめざして株などに投資したいと考えています。損をする可能性があるの、分かってはいますが、具体的にどのようにするのが良いのでしょうか。

相応するリスクを覚悟 ■ 長期運用＋分散投資を

個人の資産運用は目標収益率をイメージすることが大切です。高い収益率を実現しようとするれば、相応する高いリスクを覚悟しなければならぬからです。

ここでいうリスクとは、元本割れの危険性ではなく、リターン（期待収益率）とリスク（期待収益率からブレを指します）の両方です。高い収益率を獲得できますが、外れると大きな損を抱えます。逆にリスクを取らずに安全なだけを追求めると、必要収益率に達せず、インフレ時に現金の購買力が減ってしまうこともあり得ます。

まず、自分はこの程度の収益率を目標とすべきかを想定しましょう。高い収益率を必要としない人生設計なら、預金など安全性の高い商品を選ぶべきだと思います。相対的に目標とする金額が決まっています。これを達成する収益率を考えてみましょう。

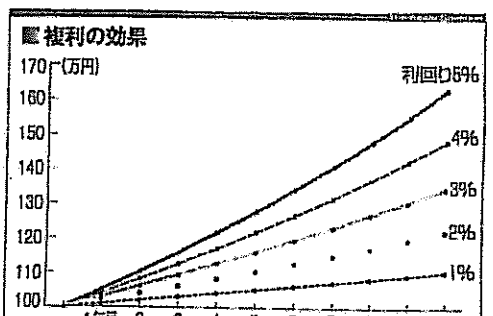
今後10年間、リスクをほとんど取らず、預金や個人向け国債などの運用で得られる収益率が引き算後で1%程度とすると、月10万円の積み立てが1255万円、現物の1千万円が1105万円となり、この合計は2360万円にしかなりません。

一方、積み立てる分の運用で仮

低金利の時代に5%の利回りをいかに実現するか。元本保証、確定利付の商品だけでは難しいでしょう。株や外貨建て商品などを選んでリスクを取る必要があると思います。そのときの基本は「長期運用＋分散投資」です。長期運用は利子が元本にプラスに増えて元本を膨らませながら運用することです。

「複利」は、運用期間が長いほどその効果が大きくなるからです（折れ線グラフ）。

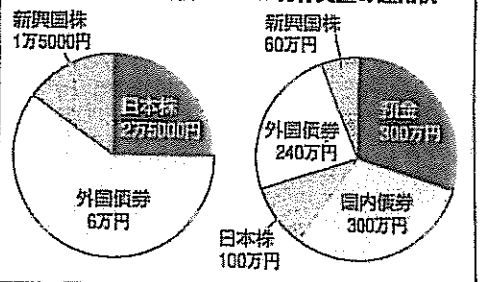
複利は収益率の複利です。表は100万円の投資で複利が大きい運用と小さい運用を比較しています。平均収益率はともに5%ですが、ブレが小さい運用のほうが資産は増えていきます。なぜか、ブレが大きい運用の8年目に値が下がり、次の年に25%値上がりしてやっと元に戻った。つまり大きなブレを繰り返すと、元に戻すだけで多大な努力を要し、運用の効果が落ちてお金の増えなくなるのです。



■ 100万円を投資・運用、収益率のブレが大きいと...

	1年目	2年目	3年目	4年目	平均収益率	元利合計
ブレ大	10%	20	-20	10	5	116万1600円
ブレ小	5%	6	4	5	5	121万5396円

■ 積み立ての運用例 ■ 現有資産の運用例



このブレリスクをできるだけ小さくするため、投資先を複数に分散させます。一方の投資対象で損失が出たら、もう一方で利益が出やすいような組み合わせをつくり、できるだけお互いの補い合っような状態にするのです。

こうした考え方を踏まえて、相乗効果のこれらの資産運用例を示したのが図グラフです。

その間に、積み立て運用の効果が大きくなっていきます。資産全体のうち、積極運用部分（積み立て運用と、現有資産で積極運用している部分）が4割を大きく超えたら、値上がりしている投資先を一部解約するなどで、安定運用と積極運用の比率を時々、調整すれば良いでしょう。

積極運用では、さらに投資先を分散できる工夫があります。詳細は改めて説明したいと思います。

(無断転載を禁止します)

H21年7月25日

(出所) 朝日新聞 be Saturday